

\*\*\*\*\*

## Jr.河川レンジャー・プロジェクト

～郷土愛の確立を目指した  
地域学習の研究～

後藤 憲治	社会領域専攻	4 回生
高石 惇平	社会領域専攻	4 回生
西脇 啓一郎	社会領域専攻	4 回生
福井 充	社会領域専攻	4 回生
奥山 俊志哉	社会領域専攻	3 回生
松宮 紘平	社会領域専攻	3 回生

\*\*\*\*\*

### 第1章 プロジェクト概要

#### 1. プロジェクトの目的

河川レンジャーは住民と行政が一緒となって川の管理や整備を行う活動である。そのため、住民と行政との間に立って河川と地域との良好な関係を作っている。その流れから始まった活動が、小学生にも河川を通じて地域を知ってもらう Jr.河川レンジャーである。

その活動では、宇治川に伝統を持つ十石舟に試乗し、伏見の歴史や環境など地域をより知ってもらおうとする総合学習の試みが伏見の小学校と地域企業の間で行われており、一昨年度から京教生もその活動に参加してきた。

昨年度は、十石舟試乗体験におけるパンフレットや総合学習の指導案作成、45 分間の授業など、全 3 時間分を任せて頂いた。今年度は昨年度の活動を基盤とし、昨年 of 反省を活かし、資料の改善や、授業改善を行う。児童に郷土愛を確立させることを目的とする研究を通して、私たちも郷土愛を深めるようにしたい。このプロジェクトで、より小学生に地域への愛着、郷土愛を持ってもらうプロジェクトを行いたい。

#### 2. 代表者及び構成員氏名等

##### ・代表者

野間 勇輝 社会領域専攻 3 回生

##### ・構成員

加藤 瞳 社会領域専攻 4 回生

熊取谷 知 社会領域専攻 4 回生

黒木 勇樹 社会領域専攻 4 回生

#### 3. 助言教員

石川 誠先生 (社会科学科)

#### 4. 構成員以外の主な協力者・団体など

中川 雄介 伏見プランニングセンター

橋詰 泰幸 河川環境管理財団

小仲 一輝 社会領域専攻 3 回生

橋本 健太郎 社会領域専攻 2 回生

石掛 元気 社会領域専攻 2 回生

### 第2章 内容や実施経過など

#### 1. 【下準備・教材研究の活動】

##### 内容

全 3 時間ある総合学習の 1・2 時間目にあたる「十石舟乗船体験とクリーンアップ作戦」の授業を行うための準備を行う。

##### 実施経過

4/15 十石舟試乗, 三栖閘門資料見学

4/22 授業構想と教材「パンフレット」作成

5/18 教材「パンフレット」完成

7/22～ 教材「パンフレット」の改善考察

10/7 教材「パンフレット」改善版完成

#### 2. 【総合学習 1・2 時間目の活動】

##### 内容

伏見の小学校 校の小学 4 年生に対し、地域の河川に親しむために、十石舟乗船体験・クリーンアップ作戦の授業を行った。

##### 実施経過

6/9 深草小学校

6/16 向島南小学校

7/7 桃山東小学校

- 7/8 伏見住吉小学校
- 10/21 桃山小学校
- 10/22 砂川小学校
- 11/16 桃山南小学校

#### 当日の流れ

- 10:00 中書島十石舟乗り場出発  
→三栖閘門資料館見学、三栖閘門展望台へ登る
- 11:30頃 全班三栖閘門へ到着  
→クリーンアップ活動(伏見港公園付近もしくは角倉了以の水利功碑付近まで)
- 12:00 解散

### 3. 【下準備・教材研究の活動】

#### 内容

総合学習 3 時間目の授業である「伏見歴史講義」について授業準備・教材研究を行う。

#### 実施経過

- 12/2 学習指導案(仮)作成
- 12/21 学習指導案(仮)完成  
伏見プランニングセンター報告書作成
- 12/22 授業内容検討会(中川さん)
- 12/23 授業用パワーポイント作成
- 1/30 授業用パワーポイント完成と学習指導案(本)の完成  
模擬授業・授業改善開始

### 4. 【総合学習 3 時間目の活動】

#### 内容

1・2 時間目を体験した児童に対し、さらに地域の河川に親しむため、疏水・伏見の歴史・防災などの多様な視点から授業を行う。

#### 実施経過

- 2/8 深草小学校(2回に分けて実施)
- 2/15 桃山南小学校
- 2/22 桃山東小学校
- 2/23 向島南小学校
- 2/24 桃山小学校

- 3/3 伏見住吉小学校

## 第3章 プロジェクトから得られた成果

### 1. 教材研究「パンフレットづくり」

(1) 4月15日

本プロジェクトの初活動である。中書島の十石舟乗り場から船に乗って、三栖閘門まで下り、三栖閘門資料館を見学した。実際に船から景色を眺めることで、児童の視点になることができ、教材研究に活かすことができた活動であった。



(十石舟からの風景)



(十石舟からの風景)

(2) 4月22日～5月18日

1・2 時間目の授業を行うにあたり、どのような授業にするのかを構成員で考え、授業で実際に使う教材開発にとりかかった。

十石舟に乗船して私たちが着目したのは、船から見える史跡(月桂冠大倉記念館、琵琶湖疏水合流地点、角倉了以の水利功碑、伏見

港公園など）と船の経路に植樹されている植物である。これらをどのようにして児童に示すかを考慮した。そして、授業の大筋を十石舟に乗って伏見の史跡を巡りながら自然に囲まれた河川に親しむことに決定した。

教材開発を行う上で、特に注意した点は、児童が取り組みやすい活動を取り入れることである。去年の活動の反省から、乗船中であっても児童が取り組みやすい活動にした。乗船中に見える史跡の写真を A3 判に 4 枚ずつ印刷したものを 2 枚用意し、どの史跡が何番目に見えたのかを探す活動を取り入れた。また、植物に注意を引かせるため、十石舟の経路で見つけられる植物(パンジーや紫陽花、柳など)の写真を季節ごとに用意し、乗船中やクリーンアップ活動の最中に見つけた植物に印をつけていく活動を取り入れた。

その他にも、パンフレットの中には、十石舟に関するマンガを作成したり三栖閘門資料館で押せるスタンプを押す場所を設けたりするなど、児童が興味・関心を持つような教材「パンフレット」を開発した。

十石舟に乗って川に親しみを持とう！



(教材「パンフレット」の表紙)

(3) 7月22日～10月7日

実際に授業を行い、明らかになった改善点を良くするために、構成員で議論を重ねた。

まず、乗船中の活動で使用する資料を A3 判で折り込み、A4 判として製本していたため、乗船中に紙が広がり、児童が作業をしづらくなったり、上手く綴じ込めなかったりした。また、2枚にわたって写真を印刷していたので、それをめくる作業も児童にとっては難しいということが判明した。

この点を改善するために、写真の枚数を減らし、8枚から6枚にした。表紙の裏に2枚、そしてA3判ではなく、A4判に4枚の写真を印刷した。こうすることで、児童が乗船中に作業をしやすくなり、船からの景色を楽しむことができるようになった。

その他にも、植物の資料を秋に見える植物(イチヨウや紅葉など)に変更した。

## 2. 総合学習1・2時間目

○6月9日～11月16日

伏見区の小学校7校計600名、それぞれの児童に対して授業を行った。

十石舟に乗ったり、三栖閘門資料館の見学や三栖閘門に登ったり、マンガを使用して十石舟の歴史について説明するなど、小学生が興味をもち川に親しみを持てるような授業を行うように心がけた。

学校によって規模は異なるが、最大100名を超える学校もあった。そのため、全員の児童に活動内容や注意事項の説明を効率的に行うために、事前に構成員同士で模擬説明を行い、練習を重ねた。練習のおかげで、実際の授業でもほぼ滞ることなく授業を進めることができた。

この授業では、船に乗ることが大きな活動の一つであるが、船の運航時間の都合で、30分程度乗船場などで待ち時間ができてしまう。その時間を有効に使うために、教材「パンフレット」に盛り込んだ十石舟に関するマンガ

を用いて十石舟に関する説明を行った。昨年度はこの待ち時間を有効に活用できなかったが、この説明を行うことで、児童の集中力を持続させることができた。

活動中の児童の様子は、乗船中の活動に意欲的に取り組んでいたりと、三栖閘門資料館や三栖閘門では積極的にメモをとっていたりするなど、関心を持って授業に参加してくれて、意欲的に活動に取り組んでくれたように感じることができた。

特に、乗船中は、船から見えた景色の順番を当てることにとても意欲的になり、船の中からの景色を楽しんでいたように思える。また、クリーンアップ活動においても、なかなかゴミが見つからない時でも、一生懸命に探す児童がいたので、河川に親しみを持ってくれたように感じた。

今年度は小学校の先生に対してアンケートを実施した。7校の先生計17名の先生方に回答して頂いた。

アンケートの結果は添付資料を参考して頂きたい。

結果を分析すると、乗船中、乗船後の活動共に、⑤または④の評価を8割以上の先生から頂くことができた。全体総評に関しても、指示の仕方、活動の進み方について良い評価を頂くことができた。

授業を行った我々も、児童が意欲的に活動している様子を通して、自分達の意図していたことが達成できたという思いをもつことができた。



(十石舟乗船場にて)

### 3. 教材研究（総合学習3時間目）

(1) 12月2日～1月30日

3時間目の授業構想・指導案づくりに取り組んだ。今回の授業では、「川の使われ方の変化を理解し、川を守るためにできることを考える」という目標を立てた。そして、今回の授業で子どもたちに伏見の町に郷土愛を持たせるきっかけづくりにしようと構成員で話し合い、決定した。1・2時間目の体験学習とは違い、3時間目は講義形式をとるため、45分間児童を飽きさせず、興味を引く指導案を作るように心掛けた。また、事前に小学校側の要望を確認し、小学校のニーズに合わせた授業も作成した。

#### ① 「伏見の歴史」パートについて

このパートの学習では、港町伏見の歴史や伝統を前回の学習を振り返ることで学習していけるように設定した。

昔の伏見の様子が描かれた絵を見ながら、物を運ぶ手段の変化（人馬、舟、電車、車・飛行機）を考えさせ、十石舟が活躍した理由・衰えた理由を児童にわかりやすく伝えられるように工夫した。

#### ② 「琵琶湖疏水」パートについて

このパートの学習では、疏水と児童の生活の関連を考えさせることを心がけた。「疏水は今は何に使われているのか」という発問をきっかけにし、疏水が児童の生活や町にとって大切なものであることを児童に考えさせるようにし、この思考を踏まえた上で、児童に疏水の周りの環境を保全していくという意識を持ってもらえるように工夫をした。また、パワーポイントを用い、琵琶湖と伏見の町が繋がっている様子をアニメーションを使用し、わかりやすく伝えるように工夫した。



### ③ 「水災害の防止」パートについて

このパートの学習では、「ハザードマップ」を用いて川が氾濫した時、児童のいる小学校がどの程度浸水するのかを児童に分かりやすく伝えるように心がけた。

水災害の意識を児童に持たせるために実際に防災グッズを用意した。

## 4. 総合学習 3 時間目の活動

○2月8日～3月3日

前回 1・2 時間目を担当した伏見区の 7 つの小学校の児童に対して授業を行った。どの小学校においても児童の反応は良く、伝えるべき事柄三つもしっかりと伝えることができた。講義形式という形をとったために、発問を多くした結果、予想以上に様々な児童の思考に触れることができたことは、大きな収穫であった。

前時の授業内容も大部分を覚えており、授業にも積極的に参加してくれたことから今回の授業の目標を達成できたと実感できた。

各項目の結果は添付資料 2 を参照して頂きたい。

アンケートの結果を分析してみると、歴史、疏水、水災害の防止部分において、全体の 8 割以上の先生から⑤または④の評価を頂くことができた。授業全体の評価としても、④の割合の方が⑤に比べて大きい、良い評価を頂くことができた。



(授業風景 於深草小学校)

## 第 4 章 まとめや反省、今後の展望など

### 1. まとめ

本プロジェクトは昨年度からの継続であり、昨年度よりもより良いものを目指して活動が始まった。

活動の中心になったのは、今年度から新たに活動に参加した 3 回生であった。右も左もわからないまま始まったので、昨年の活動を経験していた構成員がいたことはプロジェクトを通じて良い方向へ向かった。昨年の活動に参加をしていた構成員がいたからこそ、改善点を明確にでき、プロジェクト全体を通して良い方向に働いたと実感している。

一年間の活動を通して、改めて同じ目標を目指す仲間のありがたみを実感できた。本プロジェクトは、大学の授業とは別の時間帯に動く必要が多くあった。教育実習などの実地教育、授業などで個人が活動できる時間にも制限があった。そのような時に、時間の空いている構成員が動くなど、一つのチームのようにプロジェクトが進行したことは大きな収穫である。構成員が 10 名と多くいたので、意見の衝突や授業を一つにまとめる作業は大変苦労した。しかし、お互いの教育観や想いをぶつけあえたからこそ自分たちが納得いく授業を作ることができたと考えている。

今回のプロジェクトは、郷土愛の確立を目指した地域学習の研究を目的とし、伏見の町を実例としながら研究を続けた。そこで学んだことは、郷土愛を確立させるには、まず「自分の町を好きになること」、そして、「町の良さを認識すること」が大切ということである。私たちは、今回のプロジェクトを通して「河川を通して、伏見の街の良さを知る」というきっかけ作りに携われたのではないかと考える。一度の授業や短い関わりでは、児童に郷土愛を持たせることが難しい。長い関わりの中で教師がきっかけを与え続けることで確立するものであるということを本プロジェクトを通じて実感した。

## 2. 反省

本プロジェクトの最終報告としての反省点は大きく分けて二つある。一つは、「教材研究」、もう一つは、「授業実践」である。

教材作成の中心となったのは教材「パンフレット」である。昨年度の実践を活かし、学校側や伏見プランニングセンターの中川さんからも高い評価を頂くことはできたが、資料館や三栖閣での活動を補助するような教材が作成できず、児童にとって分かりにくいものになってしまった。

乗船中の活動以外にも、待ち時間を有効に使おうとマンガを作成し、それを元に説明を行ったが、児童を引き付けることがなかなかできなかった。教材を有効に利用できるような説明にしなければならないと感じた。

また、教材研究を行うに当たり、小学校との事前打ち合わせや授業日の日程を考えて、教材の作成スケジュールを計画的に行うことができなかった。そのため、非常に慌ただしく活動が進んでいってしまい、質の低いものが最初に出来上がってしまった。この原因は、構成員同士が全体を見ることや情報をお互いに共有することができなかったことである。

実際に授業で教材を使用することで、作成していた時には考えつかなかった不備が多く見つかった。乗船中に児童に見せる写真の撮り方や使用する教材の紙のサイズなど、実際に教材を使用する子供たちのことを考えて作成できなかった。来年度に向けて乗船中以外の活動を補助できるような教材研究がさらに必要であることを留意しておく。

二つ目は、「授業実践」である。昨年度の実践を活かし、授業で何が教えたいのかということを中心に授業を作成した。「伏見の町の学習」「疎水学習」「水災害の防止」という3つのパートが独立した内容のため、授業を通した目標を作成するのに非常に苦心した。

私たちが立てた目標の下、授業を作成したところ、流れが子どもたちにとって分かりに

くいものになってしまった。45分という限られた時間の中で、3つのパートを満遍なく行い、授業の中で教師が伝えたいことを盛り込むことの難しさを経験した。今後も、さらなる授業改善に取り組んでいきたい。

本プロジェクトは、大学・小学校・企業という3つの異なる団体が一体となって行うものである。そのため、お互いに情報や意思の交換を行うことが非常に大切であった。

それだけでなく、構成員同士においても情報や意思の交換が重要であると感じた。教材研究のスケジュールや授業日、小学校との事前打ち合わせ、作業の分担など、本プロジェクトは個人の力だけでは到底進めることはできないものである。そのため、連絡を密にとることが大切であったが、個人に負担がかかったり、情報を全体で共有できていなかったりと、全体の動きが滞ることにつながってしまうようなこともあった。

各団体間、構成員間の連絡を密にとる必要があることを認識しておきたい。



(協力して頂いていた伏見プランニングセンターの中川雄介さん)

## 3. おわりに

本プロジェクト全体の評価は3月末に開かれる予定の反省会議の場までは分からないが、昨年度よりもいいものという目標の下、一人一人が努力し無事に終了できたことで昨年とは違った大きな自信と経験を得ることができた。

本プロジェクトが無事に終了できたのは、



昨年に引き続きお世話になった伏見プランニングセンターの中川さん、深草小学校の川田悦子先生、向島南小学校の石井文美先生、伏見住吉小学校の富田安彦先生、桃山東小学校の北村直美先生、桃山小学校の吉田圭子先生、砂川小学校の松山和平先生、桃山南小学校の横山ひとみ先生など様々な方にご協力を頂けたおかげである。貴重な経験をさせて頂いた方々に感謝をして、今後活かしていきたい。



(三栖閘門資料館で熱心に学習する児童)



(十石舟に乗りこむ子どもたち)



(授業で実際に使用した防災グッズ)



(十石舟乗船中の活動)



(3 時間目の授業風景 於向島南小学校)



(三栖閘門にて)



(水災害に関する説明を行っている様子)





